ミューズ No. 43　平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行：2020 年 6 月
編集：安斎育郎、山根和代: musejapankyoto@gmail.com
イラスト：戸崎恵理子、Pegge Patten, Koen Vlerick

緊急のお知らせ

第 10 回国際平和博物館会議は「出席型の会議」ではなく、「オンライン会議」として 2020 年 9 月 16 日開会で開かれます

INMP 代表　安斎育郎

新型コロナ・ウイルス感染症の拡大状況を踏まえて、私は INMP のジェネラル・コーディネータとして、9 月に予定されている第 10 回国際平和博物館会議を「オンライン会議」として開催することを提起しました。同会議は電子通信技術をフルに活用して、世界中の INMP 会員の誰でもオンラインで参加できるように保証します。

会議での発表の申し込みは 2020 年 6 月 15 日に変更しました。その上で、発表用の映像・音声・パワーポイントによる発表資料などの最終締め切りは 2020 年 8 月 20 日です。

私たちは皆さんが平和博物館の活動報告や理論的考察などを次頁の説明を参考にして積極的に参加されるよう呼びかけます。

発表申し込みしめきり: 2020 年 6 月 15 日
収録した発表映像などの締め切り:2020 年 8 月 20 日

どのようにして会議に登録するか？

これまですでに 10 人以上の方が参加申し込みを済ませていますが、それらの人々は改めて申し込む必要はありません。.航空機やホテルを予約した人は解約して下さい。

新たに申し込まれる方は、以下の支持を参照して下さい。

登録に当たっては次の項目の準備をして下さい。.

(1) 申し込み責任者の名前
(2) E-メール・アドレス
(3) 発表のタイトル
(4) 発表の種類（下記参照）
(5) 発表の要旨
(6) 共同発表者の名前と E メール・アドレス

発表者はパネリストも含めて、発表申し込み時に５０００円をペイパルで収めることによって発表の資格を得ます。私たちは皆さまからの寄付も期待しています。

１． 報告・論文発表(15 分間のビデオ、音声、解説付きパワーポイント、または 5000 字の文字原稿と図表)

発表の内容は、（イ）平和博物館、記念碑、記念公園などのケース・スタディ、（ロ）プロジェクトや特別企画 等のレポートや平和教育プログラムを含む)

発表者は 15 分間のビデオ（音声のみの場合も OK)、解説付きのパワーポイントを提出する。

書いた形で発表したい場合は写真や図表を含めてマイクロソフト・ワード(.docx)、パワーポイント(.pptx)、またはアドーブ・アクロバット(.pdf)のファイルで送って下さい。

２．パネル討論会(25 分間の収録ビデオ、音声、または、文字原稿)

パネル討論会は 3 人以上のパネリストがいろいろなトピックスについて発表するもので、その形はビデオ収録、音声録音、文字起こし原稿の形があります。発表時間は最大 25 分です。

３． ポスターまたは展示発表

ポスターまたは展示発表は、インフォ・グラフィックス、ポスター、芸術作品（絵画、彫刻、ミックトメディア、フィルム、ビデオ）または歴史的遺物などで、発表内容を.pdf、jpg、pptx、docx. format で送って下さい。

問い合わせ先:

- 発表申し込みの仕方や収録方法や収録内容の送り方などは➡ Call for Presentations page.
- 技術的な問い合わせは➡inmp.ecommunications@gmail.com.
- 会議のプログラムについての問い合わせは➡inmpoffice@gmail.com

申し込むにはここをクリック

INMP 2020 申し込み

INMP への送金方法: 送金先:INMP 郵便局 振込用口座番号 記号 14480
番号 49799181 名前 アイエヌエムピー
他金融機関からの振込の場合 店名 四四八(ヨンヨンハチ) 店番 448
普通預金 口座番号 4979918

erico

戦後 75 年、戦後処理を考える

山梨ピースミュージアム
理事長　浅川　保

山梨平和ミュージアム（ＹＰＭ）では、戦後 75 年の今年、企画展「戦後 75 年、戦後処理を考える」を行っている（１月から６月末まで）。７５年に及ぶ長い戦後が、主要国の中で日本だけに続いていることの意味は何だろうか。プラスの意味でとらえると、戦後７５年間、日本は戦争をしてこなかったということであるが、マイナスの意味でとらえると、戦争の責任をとってこなかった、戦後処理が終わっていないということではなかろうか。例えば、北朝鮮との間には国交回復すらできていない等々。

これらの背景には、戦後の東アジアの国際情勢、相手国の対応もあるが、主たる問題は、直近の安倍外交に典型的に見られるように、歴史に学ばず、主体性を欠いた日本の外交姿勢、対応にあるのではなかろうか。そんな問題意識で次のような展示を行っている。○ポツダム宣言と戦後日本の出発　○関係各国との経過と課題　○村山談話と安倍談話　○日本とドイツの

歩みの比較　○日韓・日朝の戦後７５年

なお、２月１６日、ＹＰＭで、講演会「戦後７５年、戦後処理を考える」を開いた。別紙・
山日新聞記事を参照下さい。

山日 2/17

周辺国と友好 発展を

浅川さん 戦後75年、課題探る

山梨平和ミュージアム（甲府市）で講演会「戦後75年、戦後処理を考える」が開いた。ミュージアムで助確している同名の企画展の関連企画。戦後の歩みを振り返り、国際関係など現在に残る課題を考えた。

ミュージアム理事長の浅川保さんは韓国や北朝鮮、ロシア、中国、米国との外交史を振り返り、東アジア地域の戦後75年のあゆみと課題を語った浅川保さん（右）と大倉幸さん＝甲府・山梨平和ミュージアム

戦争犯罪者たちに目を向けて講演。「日本はアジア諸国に補償・謝罪をしたが、各国民に対してきちんと謝罪していない。国際的な信頼を得るためには国民との友好関係を発展させる必要がある」と主張した。

さらに、北方領土問題にも言及して「日本とロシアの2カ国だけで解決できる問題ではなく、中国や米国を交えるべきだ」と述べた。

ミュージアム理事の大倉幸さんは「戦後の日本とドイツの歩みに」と題し、敗戦国である日本とドイツの戦後の歩みを歴史教育、外交など多面的に比較。「ドイツは歴史的事実を踏まえ、謝罪を繰り返してきた。日本では事実を歪曲する動きがあった」などと話った。（篠原利仁）

NPO 中帰連記念館近況

芹沢昇雄

記念館もコロナで実質休館状況ですが、その影響で「国際会議」の皆様にお会いでき
ず残念です。

記念館では年４回ほど知識人にお願いして「学習会」を開いております。昨年 11 月は
首都大学東京の石川求先生に「哲学徒と哲学者の戦争体験～絵鳩毅と竹内芳郎」のタイ
トルでお話戴きました。中帰連の絵鳩さんは東大で哲学を学び当時、和辻哲郎に教えを
受け、生前、哲学者である石川先生とも交流がありました。また、今年 2 月には「中帰
連との関係で中国をどう見るか～歴史展望の中で考える」と題して、記念館会員でもあ
る庄司興吉博士（東大名誉教授・社会学）にお話を伺いました。

2017 年 3 月に「ハンギョレ新聞」の元編集長の金考諄さんが来館下さり、今年 1 月その
成果を韓国で初めて「中帰連」をハングルで紹介した『私は戦争犯罪者です～日本人戦
犯を改造した撫順の奇蹟』（A5、450 頁）を出版され記念館にも寄贈頂きました。

記念館には他にもドイベルリン自由大学のペトラ博士や、オーストラリアのクレアモ
ント康子博士なども来館下さり、それぞれドイツ語や英語で中帰連を紹介する本を出版
下さり寄贈頂いております。

記念館は来年開館 15 年目を迎え「15 周年集会」を開催予定です。

『私は戦争犯罪者です～日本人戦犯を改造した撫順の奇蹟』

コロナ危機を越えて

原爆の図丸木美術館
学芸員・専務理事　岡村幸宣

丸木美術館は 2 月 22 日より、釜ヶ崎、広島、雲仙、沖縄を撮り続けた砂守勝巳の写真展「黙示する風景」を開催しましたが、新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、4 月 9 日から 6 月 8 日まで臨時休館となりました（砂守勝巳展は 8 月 30 日まで会期延長）。5 月 5 日の開館記念日に休館するのは初めてのこと。「原爆の図」を常時公開するための場を閉ざす決断は重いものでしたが、命を想う美術館として苦渋の決断でした。

休館中、若い世代の尽力でオンライン寄付システムを立ち上げ、国内外の幅広い世代から大きな反響がありました。4000 件を超える寄付申し込みの 95％以上がネット入金という事実に時代の変化を痛感し、旧来の支持層だけを見ていてはいけないと再認識しました。もともと立地に難があるのですが、今回は「自分が行けなくても存続してほしい」との声が多数寄せられ、来館者だけでなく、「来られない」人たちにも美術館の意義を共有していくことが新しい可能性につながると示唆される思いでした。

6 月からは米国の寄付サイトに登録し、多言語による美術館紹介映像の製作にも取り組んでいく予定です。

「危機」を「機会」に、という若者たちの言葉に未来を感じています。

写真は菜の花が満開の都幾川から丸木美術館を臨んで

コロナを乗り越え、新たな発信を

第五福竜丸展示館　蓮沼佑助

第五福竜丸展示館は東京都による新型コロナウイルス感染拡大防止のための外出自粛要請を受け、3 月 28

日から臨時休館していましたが、6 月 2 日より再開館しました。例年ならば、5 月の連休明けから修学旅行生受け入れのピークですが、今年はすべて取り消しか秋以降に延期となりました。

外出自粛中も第五福竜丸について学べるようにと、展示館では展示を紹介する動画をインターネットで公開しました。これまで、館内での展示用に動画を制作したことはありましたが　、インターネットで一般に視聴できるものを作るのは初めてです。今回制作した動画は、常設展示を解説する「知って見て第五福竜丸展示館」や、所蔵資料の紹介動画、牛乳パックで第五福竜丸を作る工作ワークショップの動画などで、今後も展示館を訪れる事ができない方に向けて、また事前・事後学習向けに活用できる動画を制作していきたいと考えています。動画は第五福竜丸展示館ウェブサイトから視聴できます。

第五福竜丸展示館のある夢の島公園が東京オリンピックの競技会場とされていたことから、今年の夏は休館となる予定でしたが、五輪延期に伴い通常通りの開館となりました。新型コロナウイルスの影響がいつまで続くか分かりませんが、少しでも多くの方々に第五福竜丸について学んでもらえる機会を増やせるよう、取り組みを広げていきたいと思います。

アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」（wam）

名誉館長　池田恵理子

2020 年は「wam 創設の起源」ともいえる「女性国際戦犯法廷」から２０年という節目の年なので、各種の企画を計画していました。ところが、新型コロナウィルスの感染拡大防止で大幅な変更を迫られることになりました。3 月には臨時休館の期間を設け、5 月末までは土日のみの開館とし、セミナーやイベントは延期しました。特別展「女性国際戦犯法廷から 20 年展」(仮)は 12 月開催の予定です。

そのため来館者は大幅に減少しているので不安がつのりますが、このような状況下でも、wam のスタッフと運営委員、ボランティアは「女性法廷」の検証と確認作業を続けています。5 月には wam のサイトに、念願の「女性国際戦犯法廷アーカイブズ」を立ち上げました。これは昨年 12 月にアップデイトした「日本軍慰安所マップ」とともに、歴史研究者や活動団体から高

く評価され、国内外からの問い合わせや要請が続いています。今後は質量ともに一層の充実をはかっていきます。一方、この 5 月には韓国で「慰安婦」支援団体をめぐる問題が勃発しました。ひとりの「慰安婦」被害者が「慰安婦」支援団体である「正義記憶連帯」（旧挺対協）への批判と疑惑の声をあげ、ほぼ同時期に、「慰安婦」被害者の療養施設として知られる「ナヌムの家」のスタッフが連名で、運営団体への疑惑を告発したのです。いずれの団体とも、被害女性やスタッフとも 30 年近くの交流があるので、胸がいたむばかりです。wam には取材や問い合わせが多数寄せられていますが、今は実態が明らかにされるのを待つしかありません。

10 年ぶりにアップデイト・アップグレイドした「日本軍慰安所マップ」。これらの地点の典拠資料は wam ウェブサイトに掲載しています。　URL: https://wam-peace.org/ianjo/

わだつみのこえ記念館 企画展「戦没学徒と岩手農民兵士の軍事郵便展」の開催

館長　山辺昌彦

わだつみのこえ記念館は、2020 年 1 月 22 日～2 月 29 日の会期で企画展「戦没学徒と岩手農民兵士の軍事郵便展」を開催しました。企画展では館蔵の戦没学徒と北上平和記念展示館から借用した岩手県の戦没農民兵士の軍事郵便とをあわせて 48 人 51 点を展示しました。内訳は第 1 部のわだつみのこえ記念館所蔵軍事郵便が 20 人 20 点です。軍隊時代の書簡・葉書を各人 1 点ずつ選びました。多くは学徒出陣前後の太平洋戦争後期の若い学徒兵のものでした。学徒兵のものには検閲を逃れるために、兵舎から外出した際に出された郵便もありました。第 2 部は藤根小学校の先生だった高橋峯次郎宛ての「7000 通の軍事郵便」のうち、戦争の悲惨な実相や農民兵士たちの思いが書かれた軍事郵便、21 人 23 点を選びました。多くは中国戦線の山西省など華北で書かれたものです。第 3 部は岩波新書『戦没農民兵士の手紙』を編集した時に「岩手県農村文化懇談会」が収集した岩手県の戦没農民兵士の軍事郵便のうち、海軍関係や中国戦線の華北や「満州国」で書かれたものなど 7 人 8 点を選びました。『戦没農民兵士の手紙』には載せられなかったものですが、東京

外国語学校から学徒出陣して飛行部隊に入り、後にフィリピンで戦病死した学生の軍事郵便葉書も含まれています。期間中の来館者は 170 人でしたが、熱心に軍事郵便を読んでいただきました。企画展で展示した軍事郵便の写真と本文の翻刻、および兵士の履歴を収録した図録を刊行しました。

わだつみのこえ記念館は企画展終了後、3 月は通常の常設展を開きましたが、新型コロナウイルスによる「緊急事態宣言」が発令されたため、4 月と 5 月は臨時休館しました。

八王子平和・原爆資料館

八王子市役所に隣接するビルの 2 階にある八王子平和・原爆資料館は、有志が自主運営する貴重な資料館で、来年 7 月 25 日には開館 20 年周年の節目の年となります。

18 歳の時、広島で被爆した永町敏昭さん（2013 年死去）は、職業柄収集した原爆に関する資料 400 冊を、個人の所有からもっと有効に活用したいと市に管理運営を持ちかけたことから始まりました。

30 平方メートルほどの部屋に、現在は 2000 冊を超える原爆に係る書籍や写真、証言集などの資料がぎっしりとそろっています。これらは被爆者の遺族や市民の方たちから寄せられたものです。

広島市・長崎市が 1971 年に発刊した「広島原爆戦災誌」「長崎原爆戦災誌」の全巻をはじめ「日本の原爆記録」などの基本的文献から、著名な文学書籍、記録集、親しみやすい中沢啓二の「はだしのゲン」など幅広くそろっています。

写真や文献以外では、広島で 14 歳の時、建物解体作業に駆り出されて被爆した豊島長生（たけお）君が着ていた血染めの服は、歴史的にも貴重な遺品の資料です。避難先に収容されていた長生君が、息子を捜し求めていた母親を偶然にも見つけ「お母さん」と呼

びかけました。自分は大やけどで面影がなく、お母さんは通り過ぎようとしていたところでした。

その他にも、膨れ上がった原爆瓦、高熱で溶けて数枚が重なり合っている皿やぐにゃぐにゃになったガラス瓶なども展示しています。これらは平和展などを企画した団体に貸し出しもしていますが、展示物を見て涙したとの報告も届いています。

運営委員会では、7 月 25 日の開館記念日に毎年企画する内容の検討や、来年の 20 周年に向けて、現在、記念誌の発行の準備に取り組んでいます。

直近の 5 年間に実施した企画を紹介します。

2019 年　オバマ大統領が広島を訪れたとき被団協の坪井さんと森さんが参加しましたが、オバマ大統領に涙でハグした森さんを呼んでの講演

2018 年　ピースボート川崎哲さんによる講演

2017 年　元広島市長秋葉氏による講演

2016 年　広島市在住　韓国人被爆者　李 鐘根（イ・ジョングン）さん
「二重の苦しみの中で」被爆体験の話

2015 年　東松山にある丸木美術館と旧陸軍熊谷飛行学校桶川分教場へバスツアー

2014 年　広島被爆者沼田鈴子の半生を映画にした「アオギリにたくして」の映画上映と
中村里美さん・伊藤茂利さんによるピース・コンサート

2013 年　「はだしのゲンが伝えたいこと」の映画上映と監督石田優子さんの講演と八王
子被爆者の「証言」

2012 年　「被爆者から被曝者へ」として南相馬から避難している山崎健一さんの報告と
市民による市民のための八王子市民放射線測定室ハカルワカル広場共同代表
西田照美さんのお話

健全な財政運営を目指しNPO法人化や個人・団体会員の拡充を目指していますが、1982 年に非核平和都市宣言をしている八王子市への管理運営も粘り強く要請しています。個人会員には女優の吉永小百合さんも長年会員のお一人で、会費は年 2000 円です。

将来、広島・長崎の原爆資料館とも協力して、首都東京から平和を発信できるナショナルセンターとして、充実した資料館にしたいとも話し合っています。

一人でも多くの方々が、八王子平和・原爆資料館を訪問されることを心から望んでいます。

☆　開館日は水、金 10 時～17 時
電話：042-627-5271

☆　場所：八王子市元本郷町 3-17-5
八王子市役所隣・浜中ビル 2 階

※八王子平和・原爆資料館共同代表　広島で 3 歳の時に被爆
上田紘治

ピースあいちの近況

館長　宮原大輔

今年４月上旬にコロナ禍によるピースあいちの休館を決めたときに、展示室では４月７日からスタートするはずの企画展「模擬原爆パンプキン―市民が明らかにした原爆投下訓練」の展示作業がほぼ完了していました。休館がスタートするのも４月７日からとなり、企画展はその日から、１人の来館者にも見てもらうこともなく、静かに日々が過ぎていきました。

展示品の中に 1945 年 7 月 20 日福島県福島市の工場をねらったパンプキン爆弾の破片があります。破片とはいえ、長い所で約 50cm、重量は 10kg を超えます。終戦直前の 1945 年 7 月から 8 月にかけ、米軍が原爆投下の予行演習として日本全国に投下した 49 発の原爆模擬爆弾の最初の１発でした。その日は曇天のため市内の水田に着弾、農作業をしていた少年の命を奪いました。その父親が息子の仇として持ち帰り、近くのお寺に届けたものです。

ピースあいちが休館して約２ヶ月が経ち、ようやく６月９日から再開することになりました。当初の予定であれば４月、５月が会期だったこの展示会は、会期を延長して８月末まで開催されることになりました。多くの方にこの展示会を見ていただきたいと願っています。「破片」は持ち主との当初のお約束で、お返ししなければならないので、レプリカを制作することになりました。3D プリンターによる精巧な複製になる予定です。

ピースあいちは６月以降徐々に通常ペースの開館にしていこうとしています。当初の計画だった「沖縄展」「戦争とスポーツ展」「戦争と女学生」などの企画展は来年に延期となりました。

“New Growth” by Pegge Patten. 2009 6 x 5 feet laytex house paint on wall

国際平和ミュージアム 第 132 回ミニ企画展示

国際平和ミュージアムは、コロナウィルスの影響で閉館をしています。しかし下記の「中国人強制連行・強制労働と万人坑（人捨て場）」というＷＥＢ展示を行っています。

*****

日中一五年戦争時に日本の民間企業などにより中国本土（大陸）で強制労

働させられた中国人被害者の数はおよそ 4000 万人にもなります。その地域毎の内訳は、「満州国」をでっちあげた東北で 1640 万人、「第二の満州国」にするための分離工作を推し進めた華北で 2000 万人、華中と華南でそれぞれ最低でも 10 万人単位、おそらく 100 万人単位です。

炭鉱や鉄鉱などの鉱山や軍事要塞や巨大ダムの土建工事現場などで強制労働させられた中国人被害者の多くは過労と飢えにより衰弱死（過労死）しました。また、作業中の事故や、伝染病や、理不尽な虐待と暴行も多数の犠牲者を生む原因になっています。

犠牲者の遺体は、それぞれの事業所（現場）に近い山中など人目につかない場所に捨てられ「人捨て場」が形成されました。その「人捨て場」を中国の人々は万人坑と呼んでいますが、犠牲者の数が万人の単位になる巨大なものを含む多数の万人坑が 21 世紀の今も中国各地のいたる所に残されています。

しかし、日本で話題にされる中国人強制連行・強制労働のほとんどは、日本国内（内地）に連行されてきた約 4 万人の被害者に関することだけであり、中国本土（大陸）における強制連行・強制労働はほとんど知られていません。今回のミニ企画展示を通して、中国本土における強制労働の凄惨な実態と万人坑について認識していただければと思います。

平和を考え行動する会

展示内容

展示予定だった内容は主催者様のホームページで詳細をご覧いただけます。

万人坑を知る旅 2020

http://miyosi.webcrow.jp/index.html

リバティおおさか休館へ 消える人権運動の象徴 別の場所で再開目指す

毎日新聞 2020 年 5 月 11 日

地域のランドマークともなってきた大阪人権博物館＝大阪市浪速区で、戸田栄撮影

コロナ禍の中、日本で唯一の人権問題の総合博物館として国内外の来館者を集めてきた大阪人権博物館（リバティおおさか）＝大阪市浪速区浪速西＝が、ひっそりと人権の故地での 35 年の歴史の幕を閉じようとしている。同館は存続を懸けた大阪市との裁判闘争の末、2022 年に別の場所での再開を

目指して6月1日から休館する。5月末には、しばしのお別れの無料一般公開などをする予定だったが、実施は困難な状況だ。

同館は大阪府と大阪市が全面的に支援し、1985年に大阪人権歴史資料館として出発し、95年に大阪人権博物館と改称してリニューアルオープンした。部落問題のほか、障害者や性差別、在日コリアン、アイヌ問題など多岐にわたる人権問題の展示・研究に取り組み、総入場者は約170万人に及ぶ。

だが、大阪の知事、市長を務めた橋下徹氏らの方針転換により、府市は13年に補助金を撤廃し、存続の危機に陥った。さらに、市は同館の撤去と敷地の返還を求めて15年7月に提訴、同館は「政治的意図に基づく行政権力の乱用だ」と主張して大阪地裁で裁判が続いてきた。

裁判では、市に土地所有権があることが重く、同館が部落差別解消推進法が成立する時代状況を含めて人権施設を廃止に追い込む施策の是非を問うには限界があった。このため裁判は和解協議に移行し、近く決着する見通しともされる。同館は全国水平社創立100周年の22年に向けて新しい場所での再建を目指す方針を打ち出し、今年3月に6月からの休館を決めた。

同館の所在地周辺は、明治中期、被差別部落の解放を論じた自由民権運動家の中江兆民を国会へ送り出した地域だった。解放運動を本格的に展開した全国水平社が結成されるとまもなく本部が移ってきて、運動の中心地として全国にその名を知られた。野間宏の小説「青年の環」の舞台ともなった。

この地域は部落解放には教育が重要と考えて、明治初期から地域で資金を集めて子どもの学校をつくってきた。同館の敷地も地元小学校の第3期校舎の整備（1928年）にあたり、地元で資金を集めて購入するなどした後、大阪市に寄付したものだ。このため、同館はかつての同校を模したデザインになっている。地域で、この建物は差別をはね返す意味を持つランドマークともなってきたが、同館の解体で失われることになる。

同館の新たな建設地や規模、再開への具体的なスケジュールなどは、未定だ。再出発には相当な資金が必要なうえ、博物館事業は館単独で収支を安定させることが難しく、関係者は準備に苦慮している。その意味では、将来は不透明だ。休館中は巡回展やセミナーなどを開催するという。

同館は「部落問題のみならず、さまざまな差別と人権に関する課題はますます重要になっている。教育や啓発はもとより資料の保管や研究などに貢献し、これまで以上に人権に関する総合博物館としての存在意義と社会的役割を担っていく」としている。【戸田栄】

第42回戦争と平和を考える資料展「被爆 75 年 核兵器のない世界へ」

平和資料館「草の家」
出原恵三

高知では毎年、夏になるとピース・ウエイブと称して平和を願う多彩な行事を開催してきました。1945年7月4日の高知大空襲によって市内の大半が焼き払われ500名近い死者が出ました。悲惨な戦争を風化させず平和の尊さを改めて確認するために1979年から取り組んできました。反核平和コンサート、平和美術展、平和映画祭、掩体コンサートなどそれぞれの得意分野を生かした行事を重ねてきましたが、今年はコロナ禍でその多くが中止に追い込まれています。

その中で「戦争と平和を考える資料展」と「平和七夕」だけがなんとか実施できることになっています。

「資料展」ではこれまで戦争を市民の視線で捉え、且つ加害・被害・抵抗の視点から写真や遺品などの資料展示を行い、戦争遺跡の紹介、現代の戦争、核、沖縄、基地問題などにも言及してきました。

今回は被爆75年の節目の年を迎えるにあたり高校生が描いた「被爆の絵」40数枚を中心に据えました。アメリカによる核兵器の最初の実験場となった広島・長崎の惨状を多くの方々に、特に次代を担う若い方々に知ってもらいたいと思っています。核軍拡競争が再び加速しつつある現在、広島・長崎は決して過去の出来事ではなく、今日いつでも起こりうる世界の危険な現実であることを認識し、核兵器のない世界を実現するために核兵器禁止条約条約の早期発効を求めて行きたいと思います。唯一の戦争被爆国でありながら核兵器禁止条約に背を向け毎年軍事費の最高額を更新し続けている安倍政権の危険性と愚かさにも警鐘を鳴らします。

昨年の第41回「日本と朝鮮半島―過去・現在・未来　３・１独立運動から100年」では、展示解説について「一次資料を見せろ！」と右翼的な人がやってきて私たちと押し問答がありました。会場管理者の市役所担当課にも行って「中止させよ」などと言っていました。今年もまた来るかもしれませんが、そんな嫌がら

せに屈することなく歴史の真実を土台に未来を切り開くエネルギーを燃やせるような資料展にしたいと思います。

岡まさはる記念
長崎平和資料館

事務局長　崎山昇

「もう一度学ぼう！日本の現代史講座第１期」連続公開市民講座を７回にわたり企画しました。２０１９年１１月１６日第1回「「在日」はいかにして誕生したか」、１２月２１日第２回「戦中・戦後の農村社会」、２０２０年1月１８日第３回「ヤミ市から見た日本の戦後～長崎西浜町の自由市場」、２月２２日第４回「朝鮮戦争－日本の分岐点」というテーマで開催しました。その後は新型コロナの状況を踏まえ、秋以降に延期しています。２０１９年１１月２３日、第１７回総会前に８月の「韓国に学ぶ旅」の報告会を行い、派遣した大学生のうち２人が報告を行いました。１２月１１日～１６日、第１７回《日中友好・希望の翼》・第１９次友好訪中団を派遣し、私と大学生２人が、第３５次銘心会南京スタディーツアーに合流させていただき、南京・淮南を訪れました。２０２０年２月２日《日中友好・希望の翼》報告会を開催し、大学生が報告を行いました。２月８日～９日、韓国・釜山の影島にあるタンクット教会のセミナーに招かれ、新海智広副理事長が「岡正治先生の生涯と思想」と題して講演しました。２月２４日、ベルリンから訪れた独日平和フォーラム代表、オイゲン・アイヒホルン教授の講演会を開催しました。４月５日、「第３回髙實康稔さんを偲ぶ会」を開催し、在外被爆者支援連絡会の平野伸人共同代表に「髙實さんの思い出」をお話いただきました。４月２１日以降当分の間、新型コロナ感染防止のため、休館していましたが、現在開館に向けて準備中です。

友好訪中団で参加した「南京大虐殺死難者国家公祭儀式」の写真

ひめゆり平和祈念資料館

学芸課　前泊克美

開館 30 周年事業のひとつ、「戦跡フィールドワーク―ひめゆり学徒の足あと―」を、2 月 29 日に実施しました。新型コロナが拡大し始めていた時期で、実施への慎重な意見も出ましたが、行程の短縮し、手指の消毒などの感染防止策を講じながら実施しました。参加者からは、実際に現場を訪れることの大事さを感じたなどの声が聞かれました。悩みつつ

の実施でしたが、戦跡を訪れる機会の重要さを改めて感じました。

3月には、「第2回　“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」（平和研究所主催）の受賞作を発表しました。テーマは「ひめゆりと〇〇」。大賞の「ひめゆり映像賞」には、県内の大学生がひめゆり学徒隊で亡くなった親戚の足どりをたどり、追体験しながらひめゆりや沖縄戦に近づく様子を描いた作品が、「特別賞」には、もし今戦争があったらどうなるのかを演劇で表現した作品が選ばれました。小中学生の平和学習の成果をまとめたもの、ミュージックビデオのような映像美のある作品、平和への祈りを込めた歌など6作品いずれも秀逸で、選考委員が選定に悩むほどでした。

作品からは、若い人たちが様々なかたちでひめゆり学徒隊や戦争について考えてくれていることが伝わり、励まされる気持ちにもなりました。受賞作品はQR CODEからご覧になれます。今年度、第3回を開催予定です。

特別賞　光の跡地

https://www.youtube.com/watch?v=_PmlomPPcfg

新型コロナ・ウイルス感染症が、INMPの計画変更含め、各所に多大な影響を与えています。当館でも、沖縄での感染者増加傾向を受け、感染症拡大防止のため、4月10日から5月31日までの予定で休館しています。7月の展示リニューアルも延期となりました。

時期は未定（調整中）です。負けずに更によりよい展示を目指して準備を進めています。

報道機関も、高齢者含め対面取材が厳しく、戦後75年の発信方法で悩んでいるようです。

荒崎海岸で説明を聞く参加者
2月29日の戦跡フィールドワーク

ひめゆり映像賞　おばあのいとこ

https://www.youtube.com/watch?v=xO1WDcSZg_k

平和博物館にとっても厳しい時期ですが、頑張って発信を続け、乗り越えていきましょう。

Tel:098-997-2100 Fax:098-997-2102

HP　http://www.himeyuri.or.jp
FB
https://www.facebook.com/HIMEYUIRI.PEACE.MUSEUM/

World Peace is a Basic Right
By Koen Vlerick

投稿大歓迎
◆字数：５００字を目安に
◆願わくは写真を１～２枚
◆期限：随時受け付けます

〈原稿送り先〉
編集委員へ
musejapankyoto@gmail.com

『ミューズ』は「平和博物館運動の宝」

日本には大小70館近い平和関係の資料館・博物館があり、そのうち広島平和記念資料館や長崎原爆資料館など10館は「日本平和博物館会議」を結成し、回り持ちの幹事館体制で毎年1泊2日の協議会と研修会をもっています。また、1998年に結成された「平和のための博物館市民ネットワーク」は個人加入ベースの民間団体ですが、年2回、日英両文のニューズレター『ミューズ（Muse）』を発刊しています。一つの国の複数の平和博物館関係者が、粘り強く日英両文のニューズレターを出し続けているのは世界で唯一のことで、「世界の平和博物館運動の宝」ともいうべき素晴らしい営みです。

市民ネット会員の皆さんは是非このニュース媒体を活用して下さい。

立命館大学国際平和ミュージアムの前に「愛吉・すずのバラ」が咲いています。ビキニ水爆悲哀事件の犠牲者・久保山愛吉差は奥さまのすずさんとともに焼津のご自宅でバラを栽培していました。このバラは晩年病床にあったすずさんが自ら株分けしてくれたものです。今年も美しく咲きました。